

# 実習指導に対する看護婦の評価

## — 経験年数別による比較分析 —

坂梨 薫<sup>1</sup>・渡部 節子<sup>2</sup>

**要 旨** 実習指導のより効果的なあり方を検討する目的で、ECTB (Effective Clinical Teaching Behaviors) を用いて、看護婦の実習指導に対する自己評価の調査を実施した。今回は看護婦の経験年数による違いを中心に分析し、以下のことが明らかになった。

1) 経験年数1～3年目の看護婦と4～5年目・6年目以上を比較すると、全項目の平均点で有意差がみられた。さらに、各項目の平均点をみると経験年数4～5年目では、43項目中30項目、6年目以上では43項目中38項目有意に低かった。

経験年数4～5年目の看護婦と6年目以上の間に有意差がみられたのは43項目中3項目であった。実習指導評価に関しては経験年数1～3年目と4年目以上の間に隔たりがみられた。

2) 平均点の高かった項目は、経験年数に関係なく「良くやった時は誉め認めようとしていた」、「緊張している時にはリラックスさせるようにした」など学生との関係性や指導態度を示す内容であった。

経験年数別にみると、1～3年目の看護婦に学生との関係性や指導態度を示す内容が多く、4年目以上の看護婦では学生との関係性や指導態度のみではなく実践指導や指導方法に関する項目がみられた。

3) 平均点の低かった項目は、経験年数に関係なく「実習グループの中で刺激しあって向上できるように援助していた」、「学生同士で意見交換ができるように働きかけていた」など、学生のグループダイナミクスを喚起し、意欲を向上させるような内容を示す項目と「看護者としての良いモデルになっていた」であった。

経験年数別にみると、1～3年目の看護婦は学生の意欲向上に関する項目が低い評価であり、4年目以上の看護婦は「看護婦間の指導方法は統一していた」という指導方法に関する項目が、6年目以上では看護実践に関する項目がみられた。

長崎大医療技短大紀 12: 91-98, 1998

**Key Words** : ECTB, 実習指導, 実習評価, 経験年数

### はじめに

臨床実習は看護教育が実施されて以来、学生にとって患者との相互関係から看護を学ぶ重要な学習の場であることは周知のことである。しかし、学習の場である臨床の本来の業務は、患者の治療や看護であるため、学生が実習を行うに当たっての教育環境としては複雑な要素を持っている。看護学生の実習においては、臨床実習指導者として専任の役割を持ち指導を行っている看護婦ばかりではなく、臨床で働く看護婦すべてが患者の看護を実践する中で指導の役割を担っている。特に経験年数の浅い看護婦にとって、日常業務と平行しながら、後輩の指導に当たる実習指導が適切なものであるか疑問を抱きながら行っているというのが現状であろう。

そのような現状の中で、直接指導を担当する看護婦を対象にした、指導内容および指導方法に関する研究や報告<sup>1)~6)</sup>により、より効果的な指導のあり方が検討されている。しかし、妥当性・信頼性のある明確なスケールを用いた評価の研究は充分行われていない。そこで、今

回 ECTB (Effective Clinical Teaching Behaviors)<sup>7)</sup> を用いて、看護婦の実習指導に対する自己評価を実施した。その結果を分析し、看護婦の経験年数による指導評価の実態と若干の示唆が得られたので報告する。

### 1. 研究方法

#### 1) 調査対象

Y市の市立病院で看護学生の実習を受入れている、実習施設4病院の実習病棟の看護婦628名

#### 2) 調査期間と調査方法

学生の各論実習終了後の平成8年12月中旬にアンケート用紙を配布し、平成2月末まで留め置きとし、その後回収した。なお、回答は無記名。

#### 3) 調査内容と分析方法

43項目からなる Zimmerman, Westfallら<sup>7)</sup>が報告している ECTB を参考にして作成された石川ら<sup>8)</sup>の評価スケールを用いた。

各項目を「いつも」、「しばしば」、「時々」、「ごくま

1 長崎大学医療技術短期大学部

2 横浜市立大学看護短期大学部

れに]、「まったくなし」の5段階の選択肢で評価し、5～1点に点数化した。

まず、全体および各項目の平均点、次いで経験年数別の全体と各項目の平均点を出し、一元配置分散分析を行った。統計処理は統計解析プログラムパッケージHALBAUを使用した。

2. 調査結果

調査表の配布数は628名、回収数560（回収率89.2%）、有効回答数545名（有効回答率86.8%）であった。看護婦の施設別内訳はA病院239名、B病院85名、C病院155名、D病院66名で、4施設の看護婦の平均年齢は27.3歳、平均経験年数5年であった（表1）。

経験年数別にみると経験年数1～3年目219名、4～5年目115名、6年以上211名であった。全項目の平均は3.34±0.95であり（表2）、すべての項目において施設間による差はみられなかった。

1) 看護婦の経験年数別実習指導評価

(1) 経験年数1～3年目の看護婦の実習指導評価

経験年数1～3年目の全項目の平均は3.14±0.89であった。

項目別にみると、得点の高い項目は、10)「よくやった時は誉め、認めようとしていた」、11)

表1. 看護婦の施設別内訳

	配布数	回収数(率)	有効回答数(率)	平均年齢	平均経験年数
A病院	273	250(91.6%)	239(87.8%)	26.8歳	4.8年
B病院	98	85(86.7%)	85(86.7%)	26.4歳	4.4年
C病院	186	158(84.9%)	155(83.3%)	28.5歳	5.6年
D病院	71	67(94.4%)	66(93.0%)	27.3歳	5.1年
全体	628	560(89.2%)	545(86.8%)	27.3歳	5.0年

「緊張している時にはリラックスさせるようにしていた」、4)「冷静な態度で接していた」、34)「学生の言うことを受け止めていた」、9)「理解ある関わりをしていた」の順であった。さらに、経験年数4年目以上の看護婦にはみられなかった36)「学生と良い人間関係が取れるようにしていた」、22)「無理のない要求であった」の項目が上位に入っていた（表3）。

一方、得点の低い項目は、29)「実習グループの中で刺激しあって、向上できるようにしていた」、13)「学生同志で意見交換ができるよう働きかけていた」、19)「看護援助をよくするために、文献を活用するように言っていた」、16)「看護者として良いモデルになっていた」、21)「理論的な内容

表2. 調査項目の平均点の経験年数別比較

看護婦 N=545名  
(1～3年目N=219名 4～5年目N=115名 6年以上N=211名)

項目	平均点	①1～3年	②4～5年	③6年～	有意差		
					①と②	①と③	②と③
1) 情報を提供していた	3.62±0.882	3.47±0.93	3.70±0.82	3.74±0.83	**	**	
2) ケアの実施時に基本的な原則を確認していた	3.63±0.92	3.44±0.91	3.87±0.83	3.70±0.94	**	**	
3) 計画の発表がうまくいく雰囲気作りをしていた	3.31±0.95	3.04±0.98	3.37±0.90	3.57±0.87	**	**	
4) 冷静な態度で接していた	3.86±0.96	3.64±0.98	3.82±0.93	4.10±0.89	**	**	
5) 指導方法が教員と一致していた	3.44±0.84	3.33±0.80	3.41±0.82	3.59±0.86	**	**	
6) 看護専門職としての責任があることを理解できるように働きかけていた	3.43±0.99	3.05±0.96	3.60±0.88	3.73±0.94	**	**	
7) 不足部分を適切に指摘していた	3.44±0.82	3.18±0.87	3.64±0.68	3.60±0.78	**	**	
8) 批判ばかりでなく、前向きな態度でフィードバックや計画の発表を導いていた	3.57±0.93	3.26±0.96	3.73±0.85	3.82±0.86	**	**	
9) 理解ある関わりをしていた	3.67±0.76	3.54±0.77	3.59±0.73	3.84±0.74	*	**	
10) よくやった時は誉め、認めようとしていた	4.08±0.77	3.99±0.80	4.02±0.75	4.20±0.72	*	*	
11) 緊張している時には、リラックスさせるようにしていた	3.88±0.82	3.82±0.86	3.78±0.82	3.99±0.75	*	*	
12) 専門的な知識を持ち、伝えていた	3.51±0.82	3.16±0.80	3.74±0.69	3.76±0.77	**	**	
13) 学生同志で意見交換ができるよう働きかけていた	2.70±0.97	2.34±0.86	2.76±0.84	3.04±1.02	**	**	*
14) 学習の必要性や学習目標を認識できるように働きかけていた	3.17±0.92	2.82±0.88	3.29±0.77	3.46±0.91	**	**	
15) 興味をもてるように、看護婦は自らが熱心にケアなどしていた	3.36±0.91	3.19±0.88	3.49±0.81	3.46±0.96	**	**	
16) 看護者としての良いモデルになっていた	2.87±0.84	2.53±0.81	2.94±0.73	3.19±0.79	**	**	*
17) 気軽に質問できるような雰囲気をつくっていた	3.49±0.83	3.38±0.88	3.45±0.78	3.63±0.78	**	**	
18) 実施してよい範囲や事項を学習過程に応じて明確にしていた	3.17±0.94	2.90±0.89	3.24±0.84	3.41±0.97	**	**	
19) 看護援助を良くするために、文献を活用するように言っていた	2.75±1.10	2.44±1.07	2.89±0.94	3.00±1.14	**	**	
20) 考えたことや行動に対し、正しいかどうか考えるよう伝えていた	3.22±0.95	2.86±0.97	3.36±0.85	3.51±0.86	**	**	
21) 理論的な内容や既習の知識・技術等を実際に適用してみるように働きかけていた	3.08±0.94	2.77±0.95	3.23±0.87	3.34±0.88	**	**	
22) 無理のない要求であった	3.48±0.84	3.44±0.90	3.43±0.77	3.56±0.81	*	*	
23) より高いレベルに到達できるように励ましていた	3.20±0.80	2.98±0.82	3.26±0.69	3.40±0.79	**	**	
24) 看護記録に適切な内容のアドバイスをしてくれた	3.34±0.88	3.11±0.89	3.47±0.82	3.52±0.85	**	**	
25) 看護婦と学生は良い人間関係がとれていた	3.32±0.79	3.23±0.83	3.33±0.80	3.42±0.72	*	*	
26) 新しい体験をできるような機会をつくっていた	3.39±0.85	3.21±0.91	3.50±0.76	3.52±0.80	*	**	
27) 柔軟に対応していた	3.45±0.80	3.33±0.86	3.44±0.75	3.59±0.74	**	**	
28) ケアなどの実施に対して、適切なアドバイスをしていた	3.44±0.77	3.23±0.74	3.52±0.70	3.61±0.79	**	**	
29) 実習グループの中で刺激しあって、向上できるように援助していた	2.58±0.90	2.31±0.85	2.59±0.82	2.85±0.91	**	**	*
30) 適宜、看護援助を実施して学生に示していた	3.23±0.84	3.11±0.86	3.44±0.76	3.36±0.84	**	**	
31) 看護記録に対し、適切な時にアドバイスをしていた	3.23±0.86	3.01±0.88	3.34±0.79	3.36±0.84	**	**	
32) 受け持ち患者とよい人間関係をとれるようにしていた	3.55±0.83	3.38±0.85	3.60±0.77	3.71±0.79	**	**	
33) 新しい状況や、異なった状況に遭遇した時に方向づけをしていた	3.24±0.86	2.92±0.83	3.33±0.77	3.51±0.79	**	**	
34) 学生の言うことを受け止めた	3.73±0.78	3.64±0.84	3.68±0.68	3.85±0.75	*	*	
35) 学生の自己評価を良くするよう働きかけていた	3.03±0.87	2.79±0.87	3.15±0.70	3.22±0.88	**	**	
36) 学生と良い人間関係がとれるようにしていた	3.56±0.84	3.52±0.88	3.51±0.83	3.63±0.79	*	*	
37) 学生が選択を迷った時、選べるよう助言した	3.35±0.85	3.06±0.87	3.44±0.78	3.59±0.77	**	**	
38) よい刺激を与えるような関わりをしていた	3.13±0.80	2.86±0.76	3.28±0.71	3.34±0.80	**	**	
39) 看護婦間の指導方法は統一していた	3.23±0.84	3.16±0.77	3.18±0.92	3.34±0.86	*	*	
40) 忍耐強い態度で接していた	3.49±0.87	3.35±0.84	3.48±0.88	3.65±0.88	**	**	
41) うまくいかなかった時には学生が認められるように働きかけていた	3.22±0.82	2.96±0.83	3.31±0.75	3.46±0.78	**	**	
42) 受け持ち患者さんとその患者さんへのケアに関心を示していた	3.64±0.83	3.44±0.85	3.75±0.72	3.80±0.83	**	**	
43) 学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助していた	3.25±0.82	3.03±0.80	3.32±0.72	3.43±0.83	**	**	
全 体	3.34±0.95	3.14±0.89	3.42±0.79	3.55±0.84	**	**	

表3. 1～3年目の看護婦の平均点の高い項目順位

N = 219

順位	No.	項目	平均点±標準偏差
1	10)	良くやった時は誉め、認めようとしていた	3.99±0.80
2	11)	緊張している時にはリラックスさせるようにしていた	3.82±0.86
3	4)	冷静な態度で接していた	3.64±0.98
3	34)	学生の言うことを受け止めた	3.64±0.84
5	9)	理解ある関わりをしていた	3.54±0.77
6	36)	学生と良い人間関係がとれるようにしていた	3.52±0.88
7	1)	情報を提供していた	3.47±0.93
8	2)	ケアの実施時に基本的な原則を確認していた	3.44±0.91
8	22)	無理のない要求であった	3.44±0.90
8	42)	受け持ち患者さんとその患者さんへのケアに関心を示していた	3.44±0.85
:	:	:	:
:	:	:	:
調査項目43項目			3.14±0.89

表4. 1～3年目の看護婦の平均点の低い項目順位

N = 219

順位	No.	項目	平均点±標準偏差
1	29)	実習グループの中で刺激あって、向上できるように援助していた	2.31±0.85
2	13)	学生同志で意見交換ができるよう働きかけていた	2.34±0.86
3	19)	看護援助を良くするために、文献を活用するように言っていた	2.44±1.07
4	16)	看護者としての良いモデルになっていた	2.53±0.81
5	21)	理論的な内容や既習の知識・技術等を実際に適用してみるように働きかけていた	2.77±0.95
6	35)	学生の自己評価をし易くなるよう働きかけていた	2.79±0.87
7	14)	学習の必要性や学習目標を認識できるように働きかけていた	2.82±0.88
8	38)	よい刺激を与えるような関わりをしていた	2.86±0.76
8	18)	実施してよい範囲や事項を学習過程に応じて明確にしていた	2.90±0.89
10	33)	新しい状況や、異なった状況に遭遇した時に方向づけをしていた	2.86±0.76
:	:	:	:
:	:	:	:
調査項目全43項目			3.14±0.89

や既習の知識・技術等を実際に適用してみるように働きかけていた」の順であった。また、14)「学習の必要性や学習目標を認識できるように働きかけていた」、33)「新しい状況や、異なった状況に遭遇した時に方向づけをしていた」など4年目以上の看護婦になかった項目がみられた(表4)。

(2) 経験年数4～5年目の看護婦の実習指導評価

経験年数4～5年目の全項目の平均は3.41±0.79であった。

項目別にみると、得点の高い項目は、10)「よくやった時は誉め、認めようとしていた」、2)「計画の発表がうまくいく雰囲気作りをしていた」、4)「冷静な態度で接していた」、11)「緊張して

いる時にはリラックスさせるようにしていた」、42)「受け持ち患者さんとその患者さんのケアに関心を示していた」の順であった。また、1～3年目の看護婦になかった12)「専門的な知識を持ち、伝えていた」、8)「批判ばかりでなく、前向きな態度でカンファレンスや計画の発表を導いていた」、7)「不足な部分を適切に指摘していた」の項目が上位にあげられていた(表5)。

一方、得点の低い項目においては、上位4項目までは1～3年目の看護婦の評価と同様であったが、1～3年目の看護婦になかった35)「学生の自己評価をし易くなるよう働きかけていた」、21)「看護婦間の指導方法は統一していた」、23)「より高いレベルに到達できるように励ましていた」

表5. 4～5年目の看護婦の平均点の高い項目順位

N=115

順位	No.	項目	平均点±標準偏差
1	10)	良くやった時は誉め、認めようとしていた	4.02±0.75
2	2)	ケアの実施時に基本的な原則を確認していた	3.87±0.83
3	4)	冷静な態度で接していた	3.82±0.93
4	11)	緊張している時にはリラックスさせるようにしていた	3.78±0.82
5	42)	受け持ち患者さんとその患者さんへのケアに関心を示していた	3.75±0.72
6	12)	専門的な知識を持ち、伝えていた	3.74±0.69
7	8)	批判ばかりでなく、前向きな態度でカンファレンスや計画の発表を導いていた	3.73±0.85
8	1)	情報を提供していた	3.70±0.82
9	34)	学生の言うことを受け止めた	3.68±0.68
10	7)	不足な部分を適切に指摘していた	3.64±0.68
:	:	:	:
:	:	:	:
調査項目43項目			3.41±0.79

表6. 4～5年目の看護婦の平均点の低い項目順位

N=115

順位	No.	項目	平均点±標準偏差
1	29)	実習グループの中で刺激あって、向上できるように援助していた	2.59±0.82
2	13)	学生同志で意見交換ができるよう働きかけていた	2.76±0.84
3	19)	看護援助を良くするために、文献を活用するように言っていた	2.89±0.94
4	16)	看護者としての良いモデルになっていた	2.94±0.73
5	35)	学生の自己評価をし易くなるよう働きかけていた	3.15±0.70
6	39)	看護婦間の指導方法は統一していた	3.18±0.92
7	21)	理論的な内容や既習の知識・技術等を実際に適用してみるように働きかけていた	3.23±0.87
8	18)	実施してよい範囲や事項を学習過程に応じて明確にしていた	3.24±0.84
8	23)	より高いレベルに到達できるように励ましていた	3.26±0.69
10	38)	よい刺激を与えるような関わりをしていた	3.28±0.71
:	:	:	:
:	:	:	:
調査項目全43項目			3.41±0.79

などの項目がみられた(表6)。

- (3) 経験年数6年目以上の看護婦の実習指導評価  
 経験年数6年目以上の全項目の平均は3.41±0.79であった。

項目別にみると、得点の高い項目は、10)「よくやった時は誉め、認めようとしていた」、4)「冷静な態度で接していた」、11)「緊張している時にはリラックスさせるようにしていた」、34)「学生の言うことを受け止めていた」、9)「理解ある関わりをしていた」であった。さらに、5年目以下の看護婦にみられなかった6)「看護専門職として責任があることを理解できるようにはたらきかけていた」の項目が上位にあった。(表7)

一方、得点の低い項目をみると、上位5項目までは4～5年目の看護婦の評価と同じであったが、5年目以下の看護婦になかった30)「適宜、看護援助を実施して学生に示していた」、31)「看護記録に対し、適切な時にアドバイスをした」の項目があがっていた(表8)。

## 2) 経験年数による項目別比較

- (1) 経験年数1～3年目と4～5年目・6年目以上の比較

経験年数1～3年目と4～5年目・6年目以上を比較すると、全項目の平均点で有意差がみられた(P<0.01)。さらに各項目を比較すると、経験年数4～5年目では、43項目中30項目、経験年数

表7. 6年目以上の看護婦の平均点の高い項目順位

N = 211

順位	No.	項目	平均点±標準偏差
1	10)	良くやった時は誉め、認めようとしていた	4.20±0.72
2	4)	冷静な態度で接していた	4.10±0.89
3	11)	緊張している時にはリラックスさせるようにしていた	3.99±0.75
4	34)	学生の言うことを受け止めた	3.85±0.75
5	9)	理解ある関わりをしていた	3.84±0.74
6	8)	批判ばかりでなく、前向きな態度でカウゼルスや計画の発表を導いていた	3.82±0.86
7	42)	受け持ち患者さんとその患者さんへのケアに関心を示していた	3.80±0.83
8	12)	専門的な知識を持ち、伝えていた	3.76±0.77
9	1)	情報を提供していた	3.74±0.83
10	6)	看護専門職としての責任があることを理解できるように働きかけていた	3.73±0.94
:	:	:	:
:	:	:	:
調査項目43項目			3.55±0.84

表8. 6年目以上の看護婦の平均点の低い項目順位

N = 211

順位	No.	項目	平均点±標準偏差
1	29)	実習グループの中で刺激あって、向上できるように援助していた	2.85±0.91
2	13)	学生同志で意見交換ができるよう働きかけていた	3.00±1.14
3	19)	看護援助を良くするために、文献を活用するように言っていた	3.04±1.02
4	16)	看護者としての良いモデルになっていた	3.19±0.79
5	35)	学生の自己評価をし易くなるよう働きかけていた	3.22±0.88
6	21)	理論的な内容や既習の知識・技術等を実際に適用してみるように働きかけていた	3.34±0.88
6	38)	よい刺激を与えるような関わりをしていた	3.34±0.80
6	39)	看護婦間の指導方法は統一していた	3.34±0.86
9	30)	適宜、勤ご援助を実施して学生に示していた	3.36±0.84
9	31)	看護記録に対し、適切な時にアドバイスをしていた	3.36±0.84
:	:	:	:
:	:	:	:
調査項目全43項目			3.55±0.84

6年目以上では43項目中38項目において有意差があった ( $P < 0.01, p < 0.05$ ) (表2)。経験年数4～5年目で有意差がみられた項目はすべて6年目以上の項目に含まれていた。そこで、差がみられた項目が多かったため、逆に差がなかった項目をみると、6年目以上の看護婦では11)「緊張している時には、リラックスさせるようにしていた」、22)「無理のない要求であった」、25)「学生と良い人間関係がとれていた」、36)「学生と良い人間関係がとれるようにしていた」、39)「看護婦間の指導方法は統一していた」の5項目であった(表2)。

さらに、4～5年目の看護婦はそれらの項目と合わせて1)「情報を提供していた」、5)「指導

方法が教員と一致していた」、10)「良くやった時は褒め、認めようとしていた」、17)「気楽に質問できるような雰囲気をつくっていた」、27)「柔軟に対応していた」、32)「受け持ち患者とよい人間関係をとれるようにしていた」、34)「学生の言うことを受け止めた」、40)「忍耐強い態度で接していた」の13項目に有意差がみられなかった(表2)。

(2) 経験年数4～5年目と6年目以上の比較

経験年数4～5年目と6年目以上で有意差があったのは43項目中3項目で、その内容は13)「学生同士で意見交換ができるよう働きかけていた」、16)「看護者としての良いモデルになっていた」、29)「実習グループの中で刺激あって、向上で

きるように援助していた」であった。

### 3. 考 察

#### 1) 看護婦の経験年数別実習指導評価

経験年数に関係なく、調査全項目の評価の中で平均点の高かった項目は「良くやった時は誉めようとしていた」、「緊張している時にはリラックスさせるようにした」、「冷静な態度で接していた」など学生との関係性や指導態度を示す内容のものが多かった。特に経験年数1～3年目の看護婦においては上位10項目の内9項目が、学生との関係性や指導態度であり、1項目のみ看護実践に関する項目があがっていた。しかし、経験年数4～5年目になると、「専門的知識を持ち、伝えていた」、「不足な部分を適切な指摘していた」、「ケアの実施時に基本的な原則を確認していた」など専門職としての理論的理解の指導に対する内容、看護実践に対する指導内容など学習目標の達成に向けての項目が増加していた。さらに、経験年数6年目以上の看護婦では、4～5年目の看護婦と傾向は同じであったが「看護専門職としての責任があることを理解できるように働きかけていた」が上位に含まれており、職業人としての自覚に対する内容がみられた。

一方、経験年数に関係なく、調査全項目の中で平均点の低かった項目は、「実習グループの中で刺激しあって、向上できるようにしていた」、「学生同志で意見交換ができるよう働きかけていた」、「看護援助をよくするために、文献を活用するように言っていた」といった学生間のグループダイナミクスに関する内容と「看護者として良いモデルになっていた」、「理論的な内容や既習の知識・技術等を実際に適用してみるように働きかけた」のような専門職としての知識の伝達に関する内容であった。それらの内容は特に経験年数1～3年目の看護婦に顕著に現れていた。4年目以上の看護婦では「看護婦間の指導方法は統一していた」という指導方法に対する低い評価がみられ、4～5年目の看護婦では「より高いレベルに到達できるように励ましていた」、6年目以上の看護婦では「適宜、看護援助を実施して学生に示していた」が低い評価であった。

1～3年目の看護婦の評価の特徴として、学生との関係性や指導態度の評価が高かった。このことは経験年数1～3年目の看護婦は、基礎教育終了後それほど年数が経過しておらず学生に近い立場であることから教育的な指導内容というよりも学生との人間的な関わりを大切にしていることがうかがわれる。また、一方では経験（「経験」とは、単に時間の経過や長さを指しているのではなく、理論に微細な、あるいはわずかばかりの違いが付け加わった現実の多くの実践状況に出合っ、あらかじめ持っている概念や理論を洗練すること [Gadamer, 1970; Benner & Wrubel, 1982]) の乏しさと臨床実践能力に対する自信のなさが、実践や理論的指導に対する関わりを低さを浮き彫りにしたものと考えられる。

また、4～5年目の看護婦は仕事においては中堅ナースとして経験に基づき実践の熟練度が高まり、さらに、経験に基づいた全体状況の認識から意思決定を高めている過程にあるといえる。この時期は、周りからの期待度は高く実習指導においても、臨床実習指導者の役割を担う者が増加してくる。そのため、学校の教育方針を理解するとともに、臨床の場においては教育的関わりを要求されるようになる。1～3年目の看護婦と異なり、専門職としての理論的理解の指導に対する内容、看護実践に対する指導内容など学習目標の達成に向けての項目が高い評価となっていたのは、自己の役割に対する自覚が芽生え、学生に対する指導の変化をもたらしたものと考えられる。さらに、学生との人間関係や指導態度の評価は1～3年目の看護婦と比較すると高いものの、4～5年目の看護婦の評価として全体順位から見ると高くはなかった。このことから、4～5年目の看護婦は学生との関係性を大切にしているが、それ以上に看護婦としての専門性や理論・実践に対する内容を実習指導においては重要視していることが明らかになった。

6年目以上の看護婦においては、臨床実習指導者の役割を担っている看護婦が多かったことが4～5年目と類似した結果に至ったものといえる。ただ、6年目以上の看護婦になるとコーディネーター役割が多く、実際の患者への直接ケアを行う機会が少なくなる傾向にある。そのため、「適宜、学生に看護援助を実施して示していた」が低い評価になったと考えられる。

全体的に評価が低かったのは、学生のグループダイナミクスに関する項目であった。この内容は臨床の看護婦の指導より教員の関わりが必要な内容であると考えられる。そのため、看護婦も指導しているという意識が低く、無意識的に教員に委ねていると思われる。また、全体的に低い項目として、「看護者としての良いモデルになっていた」があった。実習は、教育的側面として学生が優れた看護婦の後ろ姿をみて学習する機会であり、看護婦が望むと望まないに関わらず看護婦には看護モデルとしての役割がある。初学者である学生は、臨床実習の場で看護を体験し、先輩の姿を見て成長していく。だが、今回の調査においては看護モデルとしての役割評価は低かった。その要因としては、看護婦自身の看護に対する自己実現が未だなされていないため、一抹の不安や自信のなさが現れた結果と考えられる。

#### 2) 経験年数による項目別比較

経験年数1～3年目の看護婦と4～5年目・6年目以上を比較すると、全項目の平均点で有意差がみられた。さらに、経験年数1～3年目の看護婦の各項目の平均点は4～5年目と比較すると43項目中30項目、6年目以上との比較においては43項目中38項目有意に低いという結果であった。

経験年数4～5年目の看護婦と6年目以上の看護婦で

は全項目の平均点に有意差はなく、各々の項目で有意差がみられたのは43項目中3項目であった。実習指導の評価に関しては経験年数1～3年目と4年目以上の間に隔たりがみられていた。

経験年数1～3年目の看護婦は、Benner<sup>8)</sup>のいう臨床の場での新人、ようやく一人前になったばかりの看護婦であるため、学習目標の達成や専門職としての理論的理解の指導といった内容は自己の問題でありが学生への指導というところまでは行き着かない状況にあるといえる。さらに、1～3年目の看護婦の中で特に1年目は学生時代の延長のような形でプリセプターから指導を受けている時期であること、3年目までは卒後教育プログラムの中で自らが学ぶ立場にある。そのため、学生の実習に対する余裕や自信のなさが繁栄したものと考えられる。

今回、実習指導に対する看護婦の評価を、経験年数別に比較した結果、経験年数1～3年目の看護婦は学生との人間関係や指導態度を高く評価し、4年目以上の看護婦は専門職としての理論的理解の指導に対する内容、看護実践に対する指導内容など学習目標の達成に向けての項目を、さらに6年目以上の看護婦は職業人としての自覚に対する項目も評価が高かった。このように、実習指導の評価において、経験年数に応じて学生に対する指導の傾向性の相違がみられた。看護の実習は臨床実習指導者のみでは丸抱えできるものではなく、臨床の場で働く看護婦すべての人的環境の調整が必要である。経験年数による実習指導の特徴をふまえた上で、臨床の看護婦全体が、バランス良く学生に関わることでより効果的な実習につながっていくのではないかと考えられる。

#### おわりに

今回の調査から得られた結果を考慮し、指導体制や具体的な指導方法について検討していきたいと考えている。最後になりましたが、調査に御協力頂いたY市立病院実習棟の看護婦の皆様に感謝いたします。

#### 文 献

1. 石井範子：望ましい臨床実習実習指導者とは—学校側と臨床側の役割分担—Quality Nursing, 1(6), pp6～10, 1995.
2. 鳥添洋子他：効果的な臨床実習指導方法の検討—臨床実習指導者の認識と実態調査より—, 久留米大学医学部附属高等専門学校紀要, 第10号, pp1～9, 1990.
3. 和田サヨ子：臨床実習における指導者の課題—指導者の自己認識を高める重要性—, 天使女子短期大学紀要, No.12, pp77～87, 1991.
4. 看護系公立短期大学看護教員部会東部グループ：臨床実習における指導領域の明確化に関する調査の結果・考察, 看護教育, 28(16), 1987.

5. 宇佐美千恵子：臨床実習指導者の指導意欲と取り組み, 看護教育, 36(13), pp1177～1183, 1995.
6. 由田美津子他：実習指導者講習会受講後の意識変化に関する調査—受講前の学習課題と受講後の変化に焦点をあてて—, 第24回日本看護学会集録(看護教育), pp211～214, 1993.
7. Lani Zimmerman, PhD, RN et al.: The Development and Validation of a Scale Measuring Effective Clinical Teaching Behaviors: Journal of Nursing Education, 27(6), pp274～277, 1988.
8. 石川ふみよ他：臨床看護実習における教員評価表の妥当性と指導体制の一考察—学生の教員および看護婦に対する評価—, 東京都立医療技術短期大学紀要, 第4号, pp77～90, 1991.
9. パトリシア ベナー(井部俊子他訳)：ベナー看護論, 医学書院, 1994.
10. 市瀬陽子他：臨床実習における看護婦の指導内容と学生の看護婦に対する評価—ECTBを用いて—, 第11回日本看護科学学会集録, pp106～107, 1991.
11. 森千鶴他：学生の臨床実習指導に対する教員評価の分析—ECTBをもとにした評価を用いて—, 第22回日本看護学会集録(看護教育), pp242～245, 1991.
12. 市瀬陽子他：臨床実習における学生の指導者(教員・看護婦)に対する評価—ECTBを用いて—, 第23回日本看護学会集録(看護教育), pp195～198, 1992.
13. 玉井稔子他：臨床実習に対する評価—看護婦と学生の比較—, 第27回日本看護学会集録(看護教育), pp76～79, 1996.
14. 坂梨薫他：臨床実習に対する評価(1報)—臨床実習指導者とスタッフ、看護婦の経験年数による比較—, 第23回日本看護研究学会雑誌, pp207, 1997.
15. 坂梨薫他：臨床実習に対する評価の分析(1)—ECTBを用いた看護婦の自己評価—, 教務と臨床指導者, 11(2), pp90～98, 1998.
16. 渡部節子他：臨床実習に対する評価(2報)—看護婦と学生の比較—, 第23回日本看護研究学会雑誌, pp207, 1997.
17. 渡部節子他：臨床実習に対する評価の分析(2)—ECTBWO用いた学生と看護婦の評価の比較, 教務と臨床指導者, 11(3), pp50～59, 1998.
18. 西尾和子：臨床実習指導者の指導意欲向上と看護管理者の役割, 看護展望, 19(3), pp306～309, 1994.
19. 千田俊恵他：臨床実習に関する学生の意識調査(その6)—実習指導効果について—, 第19回日本看護学会集録(看護教育), pp82～85, 1988.

# Evaluating Nurses' Self-Assessments of their Clinical Teaching

— A comparative Analysis According to their years of Experience —

Kaoru SAKANASHI<sup>1</sup>, Setsuko WATABE<sup>2</sup>

1 The School of Allied Medical Sciences, Nagasaki University

2 Yokohama City University College of Nursing

**Abstract** Using ECTB (Effective Clinical Teaching Behaviors), a survey of nurses' self-assessments of their clinical teaching was carried out to consider how to make clinical teaching more effective. An analysis of differences according to their years of experience has shown the following results:

1) Comparing the nurses having 1 to 3 years experience with those having 4 to 5 years experience and having more than 6 years experience, a significant difference was found in the average score of all the items. Examining each average score of every item, the nurses having 4 to 5 years experience had significantly low average scores in 30 out of 43 items and those having more than 6 years experience had significantly low average scores in 38 out of 43 items.

Significant differences were seen in 3 out of 43 items between the nurses with 4 to 5 years experience and those with more than 6 years experience. In almost all items of the self-assessments of their clinical teaching, there were wide differences between the nurses with 1 to 3 years experience and those with more than 4 years experience.

2) Regardless of their years of experience, the average scores were high in the items concerning the relationship to their students or their teaching attitude such as "tells students when she/he has done well", or " keeps self available when students are in stressful situations"

Examining the average scores according to their years of experience, the nurses with 1 to 3 years experience had the high average scores in many items concerning the relationship to their students or their teaching attitude. The high average scores of the nurses having more than 4 years experience were found in the items concerning not only the relationship to their students or their teaching attitude but also practical instruction and the teaching method.

3) Regardless of their years of experience, the low average scores were found in the items concerning stimulation to the group dynamics of students to raise students' motivation such as "Interacts well with students in a group situation", or "Permits freedom of discussion", and the item "is a good role model for students".

Considering according to their years of experience, the nurses with 1 to 3 years experience had low opinions of themselves in the items concerning stimulation to students' motivations. The nurses with more than 4 years experience judged themselves low in the item concerning the teaching method, "is organized with clinical instruction". It was in the items concerning nursing practice that the nurses having more than 6 years experience had low opinions of themselves.

Bull. Sch. Allied Med. Sci., Nagasaki Univ. 12: 91-98, 1998